

韓国国立図書館 司書部日誌1948



韓国図書館史研究会／「司書部日誌」翻訳刊行委員会 編, 田中亮 訳
B5・470頁 定価22,000円(本体20,000円+税10%) ISBN978-4-8169-3113-0 2026年7月刊行

- 政治・社会状況に翻弄された1948年当時の韓国国立図書館司書部による業務日誌であり、通常は非公開とされる公的機関の記録を、同館の全面協力のもと日本語に翻訳・収録した一冊。
- 韓国近現代図書館史や日韓近代史を学ぶ上での貴重な一次資料であり、国民へのサービス提供に向けて日々奮闘・模索する当時の図書館職員の姿が描かれています。
- オリジナル翻訳に加え、日韓の図書館史・近代史に精通した3名の専門家(田中亮氏、新藤透教授、千錫烈教授)による解説と論考が収録されています。

韓国の近現代図書館は、日本統治期、アメリカ軍政期、政府樹立期、朝鮮戦争期という複雑な統治、政治状況に翻弄された歴史を経て今日に至っている。その混乱により資料が散逸したこともあり、図書館史研究はあまり進んでいなかった。それが2020年に、朝鮮総督府図書館時代の1931年から1961年までの国立図書館時代に至る、30年間に及ぶ公文書87件が一綴りになって、ネットオークションに出現した。天祐というほかはない。

幸いにも公文書綴は韓国図書館史研究会の手に渡り、同会は直ちに検証し、発見の意味や解放前後の国立図書館の状況ほかの解説を付して2021年に緊急出版した。中核をなすのは「司書部日誌」である。目録(和韓書、洋書)、古典籍、サービス、収書の各部署における1948年一年間の業務実態が克明に記され、解放後、模索しながら自力で図書館を構築し、国民のためのサービスに邁進、努力する職員の姿が浮かび上がってくる。

「まえがき」より抜粋 「司書部日誌」翻訳刊行委員会 飯澤文夫

目次

まえがき (飯澤文夫)
凡例
第一部 概論
解説
『韓国国立中央図書館 司書部日誌:1948年(檀紀4281年)』(田中亮) 論考
「前史」としての朝鮮総督府図書館(新藤透)
韓国図書館界における李在郁の活動と生涯
—朝鮮総督府図書館と国立図書館における実践を中心に—(千錫烈)
原著解説より
韓国図書館史研究を行う理由と方法(ソン・スンソプ)
解放前後の国立中央図書館の状況(チョ・ヘリン)
司書部日誌の発見、その意味と内容を調べてみる(クォン・サンス)
第二部 司書部日誌
司書部日誌(1948年)
資料
(1) 職員一覧(1948年)
(2) 年表(田中亮)
訳者あとがき
執筆者紹介

【訳者プロフィール】

田中 亮(たなか まこと)

1969年山形県山形市出身。中学時代にテレビで見かけたハンゲルに興味を覚え、韓国語の独学を始める。東北学院大学経済学部卒。東北大学附属図書館、いわき明星大学(現・医療創生大学)図書館勤務を経て、2006年宮城県教育委員会に司書として採用され現在に至る。

*「内容見本」は裏面をご覧ください。

202605

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <https://www.nichigai.co.jp/>

注文書	韓国国立図書館 司書部日誌1948	取扱書店
	定価22,000円(本体20,000円+税10%) ISBN978-4-8169-3113-0	冊



9784816931130

韓国国立図書館 司書部日誌 1948 内容見本

『司書部日誌』の発見、その意味と内容を調べてみる

クォン・サンス 韓国古書研究会 会長

◆目録記述部

書名/著者事項	司書部日誌 / 国立図書館司書部 編
版事項	筆写本 (原本)
発行事項	ソウル: 国立図書館, 1948
形態事項	1冊 (370面); 28 × 21 cm
注記事項	表題: 司書部日誌 作成年度 (題簽墨書): 檀紀四二八一年 館長: 李在郁 副館長: 朴奉石

◆解題記述部

1 概要

本解題対象資料である『司書部日誌』は、檀紀4281 (西暦日まで1年間の国立図書館 (現・国立中央図書館) 司書部 (部) 西書課、古典課、編纂課、収書課) で、毎日の業務を各課でその次に館長および部長などの決済を受けた司書部の業務日誌である。

2 著者事項および編纂の経緯

本解題対象資料である『司書部日誌』は、国立図書館司書部発行者でもある。個別的には、国立図書館司書部所属の5課の場合が大部分で、各課長が親筆で日誌を記録したので、著者であろう。1948年6月23日付記録を調べてみると、司書部長であるあり、副館長を兼ね) は、赤鉛筆を使って直接親筆で日誌に記入すること、そして翌日の朝9時前に提出すること」と指し、副館長が親筆日誌だと

韓国図書館界における李在郁の活動と生涯

- 朝鮮総督府図書館と国立図書館における実践を中心に -

千 錫烈

1. はじめに

李在郁 (イ・ジェウク/이재욱 1905-1950?) は、日本統治期 (1910-1945) の朝鮮および解放後の大韓民国建国期における代表的な図書館員の一人である。日本統治期には1931年から朝鮮総督府図書館に嘱託として勤務し、1939年には朝鮮総督府図書館での初の朝鮮人司書となり、その後は副館長を務めるに至った。また著作活動を通じて図書館の整備の必要性や読書活動への啓蒙にも力を尽くした。特に1935年に刊行された『農村図書館の経営法』は、朝鮮語で著された最初の図書館専門書として知られている。さらに解放後は、混乱した社会状況の中で国立図書館の設立と運営に携わり初代館長として、韓国図書館界の基礎形成にも重要な役割を果たした。しかし、朝鮮戦争の際に北朝鮮の政治保安部に連行され、その後の消息は明らかではない悲劇の人物でもある。

日本においては日本統治期の朝鮮における図書館活動に関する研究自体が十分に進展しているとは言い難い。ましてや李在郁に関しては、その存在さえほとんど知られておらず、図書館人としての業績が十分に検討されているとはいえない。

一方、韓国では近年になって本書の解説を担当しているチョ・ヘリン (Jo, Hye-rin/조혜린) やソン・スンソプ (Song, Sung-Seob/송승섭) らによる研究が行われ、李在郁の朝鮮総督府図書館および国立図書館での活動や著作活動などが整理され再評価されつつある。これらの研究は、日本統治期から解放後にかけての韓国図書館史を考えるうえで重要な成果であるが、日本語による紹介や検討は依然として限られている。

本稿では、こうした韓国における研究成果を踏まえつつ、韓国の国立中央図書館のデジタルアーカイブの1次史料や1973年刊行『国立中央図書館史』、そして日本の国立国会図書館デジタルコレクションで公開されている『文献報国』、『朝鮮之図書館』、『図書館雑誌』などの1次史料を参照しながら李在郁の経歴と活動を整理・紹介することを目的とする。特に李在郁の

写真1 李在郁 1933年 28才



大韓民国が樹立したこの日、公休日になっていたと思われる

1948年 8月 15日 日曜	暦年 第 213日 年度 第 389日	天候 雨
-----------------	------------------------	------

指令【朱書】	1. 大韓民国政府樹立記念日		
	受命者		完成 年 月 日
東書課	・ 邊基範 [司書]、金甲童 [副司書]、本庁祝賀式に出席した。		
西書課	・ 金正奎 [司書]、秦載弘 [副司書]、本庁祝賀式に出席した。		
古	・ 李逸穆 [副司書]、柳寛永 [司書] 両君本庁祝賀式に出席。		

アメリカ文化研究所に映画 (Library of Congress) を鑑賞に

1948年 10月 13日 水曜	暦年 第 279日 年度 第 474日	天候 晴れ
------------------	------------------------	-------

指令【朱書】	1. 館長以下、[講習会] 受講生と事務に支障のない館員も映画観覧に同行する。 (場所: アメリカ文化研究所)		
	・ 講習会 第3日 (映画: Library of Congress)		
受命者	完成 年 月 日		
東書課	・ 児童文庫 [本] の目録作成をする。(15冊)		
	・ 新書の分類をする。(供[用]命[令書]第21号25冊)		
	・ 副司書金甲奉、講習会を受講する。		
西書課	・ 金杜煥 [助手]、講習会を受講する。		
	・ 新書の分類をする。(5冊)		
	・ 新書の目録をタイプする。(10冊)		
古典課	・ 古書目録西暦1946年8月分を記入し校正中である。		
	・ 李範臣、文錫諱の両氏が講習会を受講する。		
	・ [出納手] 韓晶根君、午前中閲覧勤務する。		
編	[記載なし]		